

<p style="text-align: center;"><b>教育目標(めざす児童生徒像)</b></p> <p>教育目標 「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで実践力のある児童の育成、めざす子ども像                  ○考える子                  ○思いやる子                  ○やりぬく子</p>	<p style="text-align: center;"><b>今年度の指導の重点</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自ら主体的に学び、考える力を身につけさせる指導の充実を図る</li> <li>2 特別支援教育の充実を図る</li> <li>3 心豊かな人間性を育み、互いに人権を大切にすることの育成に努める</li> <li>4 総合的な学習の時間などを中心に、特色ある学校教育の充実を図る</li> <li>5 家庭・地域との連携を密にし、開かれた学校づくりに努める</li> </ol>
--	---

<p><b>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</b></p>	
<p><b>【学力状況調査の結果】</b>                  全国                  国語Aでは、「関心・意欲・態度」「話す・聞く」「言語」など多くの領域で県平均を上回った。                  国語Bの「読む力」、短答式の問題では県平均より正答率が高いが、記述式の問題で県平均を下回った。目的や意図に応じて必要な内容を書いたり、自分の考えを具体的に書いたりすることに課題がある。                  算数Aでは、「量と測定」で県平均を上回ったが、「数と計算」をはじめ基礎基本の定着が不十分であった。                  算数Bでは、理由を書いたり説明したりする活用型・記述式問題に大きな課題が残った。</p> <p>県                  A問題では、国語、算数、社会で県平均を上回った。国語の「読解」や「言語」、算数の「知識理解」でポイントが高く、基礎的基本的な学力の充実が伺える。                  B問題では、算数、社会、理科で県平均を下回った。思考力、記述式など活用型の問題に課題が残った。</p>	<p><b>【学習状況調査の結果】</b>                  全国                  「学校に行くのが楽しい、授業が好き」と回答した子の割合が県平均よりかなり高かった。                  早寝・早起き・朝ご飯など基本的な生活習慣定着の割合が県平均よりかなり高かった。                  平日も土日も、家庭学習の時間が県平均より短く、課題が残った。                  読書が好きな児童の割合が、県平均よりかなり高かった。                  テレビ・ゲームやインターネットを全くしない子の割合が県平均より高かった。                  授業で自分の考えを説明したり書いたりするのが難しいと感じる子の割合が県より多く、課題が残った。                  ○学力との相関関係では、平日の家庭学習が1時間以上の児童、平日のメディア視聴が2時間以下の児童は学力が高いことがわかった。</p> <p>県                  平日も土日も、家庭学習を全くしない子の割合が県より少なかった。                  平日に家庭で読書を全くしない子、図書館に通わない子の割合が県より多く、課題が残った。                  平日にゲームを全くしない子の割合が昨年度よりかなり減り、課題が残った。                  あいさつや地域の行事に参加する子の割合が県より多かった。                  授業で自分の考えを説明したり書いたりするのが難しいと感じる子の割合が県より多く、課題が残った。</p>

<p style="text-align: center;"><b>成果と課題</b></p> <p>国語の基礎的基本的な力が身につけており、特に「言語」や「読解」の事項は優れていた。                  国語の活用型問題では、書くこと(文章記述力)に課題が残った。                  算数、社会、理科ともに活用型の問題を苦手としており、数学的思考力や科学的思考力は特に課題が残った。                  国語、算数、社会など授業が大好きな児童が多かったが、理科が苦手な児童も多く、理科離れが懸念される。                  早寝・早起き・朝ご飯、手伝い、挨拶等、基礎的基本的な生活習慣がきちんと定着していた。                  学校が好きで、自分を肯定的にとらえたり将来に対する夢を持っている児童が多く、生活の充実ぶりが伺えた。                  ○家庭学習に一生懸命取り組んでいるが、県より平均学習時間が短く、土日の学習量も少ないことがわかった。                  ○小学校では読書好きな児童が多いが、中学校になると読書を全くしない子の割合が増える傾向にあった。                  ○小学校では、ノーマディア週間で取り組んだ成果が現れ、テレビ・ゲームの時間が減った。                  ○小・中学校とも、授業で自分の考えを説明したり書いたりするのが難しいと感じる子の割合が県より多かった。</p>	<p style="text-align: center;"><b>課題に対応した改善方法</b></p> <p>活用型(問題解決型)の授業を積極的に導入し、思考力・判断力・表現力を高める。                  ○授業の中で考えを書く時間を確保し、児童自らが説明し合ったり、グループ学習をしたりする場面を設定する。                  ○これまでの五感を使った授業に、ICTや物作りなど発展的な要素を取り入れ、楽しくわかりやすい理科をめざす。                  ○到達度確認テスト(算数)を単元ごとに確実にを行い、定着不十分な問題に対してはきちんと説明、復習をする。                  ○読解力テストや学力・学習状況テストの類似問題を、学習のまとめや補充問題として効果的に活用する。                  ○算数における少人数指導を充実させ、コースに合わせた適応問題、授業形態を単元ごとにきちんと位置付ける。                  ○中学生での読書離れを防ぐため、読書カード(薦める本)やブックトーク等を中心に読書の質の改善を図る。                  ○ノーマディアや家庭学習チェックの取り組みをPTAや中学校ブロックと連携しながら定期的に行う。                  ○家庭学習の中に自主学習、日記、読書を重点として位置づけ、考えたり書いたりする時間を確保する。</p>
---	--

<p style="text-align: center;"><b>取組の検証方法及び検証時期</b></p> <p>校内研究において、全員による授業公開と指導案の徹底研究を行う。(学期ごと)                  到達度確認テスト(算数)、読解力テストの活用報告カードを提出する。(毎月)                  児童への学習・生活アンケートを実施する。(学期2回程度)                  家庭への学習・生活チェックチェックカード(ノーマディア含む)を実施する。(学期ごと)                  ○図書室の本の貸し出しデータ(クラス・学年冊数等)の検証と読書月間の取り組み。(学期ごと)。</p>	<p style="text-align: center;"><b>達成目標(数値目標)</b></p> <p>平日の家庭学習で、学年目標時間達成率を80%以上に高める。                  土・日の家庭学習時間が1時間以上の割合を60%以上に高める。(高学年)                  到達度確認テスト(算数)の実施率を85%以上に高める。                  ○平日の自主学習の実施率を60%以上に高める。(3年生以上)                  ○「平日に読書を全くしない」と回答する児童の割合を20%以下に減らす。                  ○「理科が好き」と回答する児童の割合を30%以上に高める。(高学年)                  ○「人前で説明するのが苦手」と回答する児童の割合を30%以下に減らす。</p>
---	---